第 21 回対照言語行動学研究会（JACSLA21）シンポジウム講演 概要

2023.10.14 開催　於 東京工業大学

タイトル	係り結びの衰退と副詞
著者名（所属）	山田昌裕（神奈川大学）
連絡先 E ﾒｰﾙ	ft102063xu@kanagawa-u.ac.jp

論文内容

本発表では、原拠本平家物語において係り結びとなっている「ゾ」「コソ」が、『天草版平家物語』においてどのような表現に置き換わっているか、その実態を報告した上で、代替表現としての副詞について考察した。

下記の表は『天草版平家物語』の実態を示した表である。

	ゾ	コソ
消滅	498（87.7%）	109（23.5%）
残存	9（ 1.6%）	307（66.0%）
代替表現	61（10.7%）	49（10.5%）

代替表現には「ゾ→コソ」になったもの、「ゾ、コソ→ガ、ハ、モ、ノ」になったものが含まれる。代替表現の中で付加された副詞的成分は、「マコトニ」14 例、「チカゴロ」「サダメテ」「オシハカラレテ」各 1 例、合計 17 例見られた。

1 a 後世をねがふぞあはれなる（覚一 p.103）

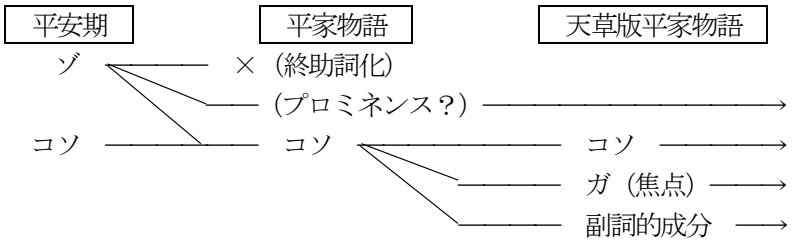
b 後世を願うたわ、まことにあわれな事ぢゃ（天草 p.217）

2 a 誠に汝が是まで尋来たる心ざしの程こそ神妙なれ（覚一 p.234）

b まことに汝がここまでたづねくるこころざしのほどわ、近ごろ神妙な（天草 p.86）

中川（2004）では、「マコトニ」は感動詞としても用いられ、係り結びとの交替に適していたと述べるが、「マコトニ」は係り結び構文以外の部分でも付加されており、この指摘には疑問が残る。そこで本発表では、係り結び構文の表現性を引き継ぐための一形式として副詞的成分を用いた表現形式があるのではないかと考察した。「チカゴロ」「サダメテ」などの成分は「ゾ、コソ→ハ」において付加されている一方で、「ゾ、コソ→ガ」「ゾ→コソ」においては副詞的成分の付加が見られない。これは「ガ」「コソ」が係り結び構文の表現性を引き継ぐことができる一方で、「ハ」は主題提示のみで係り結び構文の表現性を引き継ぐことができないことに起因していると思われる。係り結び構文の表現性を引き継ぐ形式は複数あり、そのうちの一形式として副詞的成分を用いた表現形式が選択されたのではないかと思われる。

以下は口頭語における係り結び構文の流れのイメージ図である。



【参考文献】

中川祐治（2004）「「コソ」「ゾ」による係り結びと交替する副詞「マコトニ」について―原拠本『平家物語』と『天草版平家物語』の比較を手がかりに―」『文学・語学』178